



平成22年度 種子島宇宙センタースペーススクール 事前課題

参加者の皆さんへ

本課題の主旨等

今回のスペーススクールでは参加者を3チームに分けてディスカッション及び、発表を行います。それぞれのグループにJAXAの職員が数名、アドバイザーとして付きます。

グループ分けするにあたり、参加者の皆さんより希望をお聞きしたいと思います。下記3つの中から第1希望、第2希望を選択の上、課題用紙に自由にまとめて下記提出期限までに提出してください。また、ディスカッションに向けて、勉強し、自分の考えを持ってディスカッションに参加できるように準備をしてください。

※課題は、書式自由。図などを別添で添付しても構いません。 ※この課題に正解はありません。あなたの自由な発想で、まとめてください。なお、提出いただいた課題は担当講師するJAXA職員等へ配布する予定です。

テーマ 日本が有人飛行を行うとしたら、あなたはそのプロジェクトにどのように関わりたいですか。また、それを選んだ理由はなんですか？

1 宇宙飛行士として有人プロジェクトに関わりたい！

(例)

- これまでの世界の有人活動の歴史と意義など。 ●これまでの日本の有人活動の歴史と意義など。
- 宇宙飛行士としてすべきこと、したいこと、なぜ宇宙飛行士になりたいか：日本が有人活動をする意義、国際協力の橋渡し、宇宙開発の広告塔等。

2 マネージャーとして有人プロジェクトを立ち上げたい！

(例)

- これまで世界で開発された有人ロケットの歴史。現在、今後の各国の有人プロジェクトについて。
- 有人プロジェクトを立ち上げるための課題：意義の明確化、広報活動(国、メディア、国民等に対して)、民間企業との関わり、国際協力等

3 技術者として有人ロケットに関わりたい！

(例)

- これまで宇宙に人を送ることによって進められてきた研究の歴史、現在行われている国際宇宙ステーションでの研究
- 今後、有人プロジェクトを通して行うべき研究とは：何を目標として研究するか、惑星探査？移住計画？人類の生存？もっと発展させていかなければならない研究は？
- 現在の日本のロケット技術について
- 有人プロジェクトを行うために日本が求められる技術、方法：どのようなロケットが必要か、どのような設備が必要か？等

ディスカッション参加にあたって(当日担当するJAXA職員一同より)

こうした方がよい、こうすべきだ、という考えがあり、それが正しかったとしても、現実的な手段を提示できなければ説得力はありません。(例：予算を今すぐ10倍に増やして3年以内に有人月探査を世界に先駆けて行うべきだ。)

日本の宇宙開発の現状と計画、アメリカ、ロシア、EU、中国等世界の宇宙開発の現状と計画、今後使用可能になる技術、短期間で達成できるミッションを積み重ねるか、長期的なミッションを目指すか、なぜそのミッションを推進するのか、どんな意義・展望があるのか、JAXAや日本のロケットはどの程度国民に認知されているか、今後認知度が上がる可能性はあるか、等様々な面を考慮した上で、課題について考えて下さい。

もちろん知識が不足している人もいます。課題に取り組む上で自分なりに勉強をし、自分なりの考えを持った上でディスカッションに参加できるよう準備して下さい。

■提出方法 (※郵送・FAX・メールのいずれか) **提出期限: 3/16(水)正午必着**

■提出先 スペーススクール事務局(財団法人日本宇宙フォーラム(担当:戸田、渡黒))

〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル7階

財)日本宇宙フォーラム内

TEL (03)5200-1301 FAX (03)5200-1420 E-Mail z-cosmic_camp@edu.jaxa.jp

～課題用紙～

第1希望

1・2・3 (いずれかに○)

タイトル「 _____ 」

第2希望

1・2・3 (いずれかに○)

タイトル「 _____ 」



【宛先】FAX (03)5200-1420
スペーススクール事務局
((財)日本宇宙フォーラム内)

学校名 _____

氏 名 _____